様式C-7-2

自己評価報告書

平成２２年５月７日現在

研究種目： 基盤研究（C）
研究期間：2007 ～2010
課題番号：19530378
研究課題名（和文）金融コングロマリットの経営効率性とその経営上の問題点―日米比較研究

研究課題名（英文）Management Efficiency and Problems of Financial Conglomerates-Comparison of US and Japan

研究代表者 久原 正治（Masaharu Kuhara）
九州大学大学院 経済学研究院 教授
研究者番号：00319485

研究代表者の専門分野：経営学
科研費の分科・細目：経営学
キーワード：金融コングロマリット、商業銀行、投資銀行、経営戦略、経営組織

１．研究計画の概要

(1) 既存研究をサーベーし、金融コングロマリットの経営上の特徴をまとめる。
(2) 米国の代表的な金融コングロマリットの経営戦略や組織の特徴とその経営成果や問題点を、様々な資料や聞き取りにより実証的にまとめる。
(3) 日本のメガバンクとの経営成果や問題点の比較研究を行う。

２．研究の進捗状況

(1) 本研究の開始後すぐに世界的な金融危機が広がり、金融コングロマリットの経営に大きな影響を与えた。その結果、さまざまな金融コングロマリットの経営に関する論文や資料、書籍が出回り、これらの多くに目を通すとともに、そこでのポイントをまとめ、いくつかの論文などにまとめることができた。
(2) 中でも投資銀行部門は、金融危機の経営的な影響が最も大きかったセクターであり、このセクターについての経営学的分析を深め、いくつかの知見を得ることができた。
(3) この間、毎年アメリカの研究者との意見交換を通じて、投資銀行分野に多角化した金融コングロマリットの経営上の強みと問題点をかなり明確に明らかにすることができた。
(4) これまでの研究は、文献のサーベーと研究者からのヒアリング及び財務データの分析にとどまり、実際に経営に携わる経営管理者へのヒアリングには限界があった。

３．現在までの達成度

②おおむね順調に進展している。
(理由)
上記のとおり、関係者へのヒアリングには限界があるものの、金融危機の結果、欧米の金融機関経営に関する大量の資料や文献が出てきた結果、多くの新たなお知見を得ることができ、おおむね順調に進展している。

４．今後の研究の推進方策

(1) この夏米国に行き、米銀の経営関係者からこれまでに得られた知見の裏付け調査を行いたい。
(2) これまでに得られた欧米の金融コングロマリットの経営に関する知見をベースに、我が国のメガバンクの経営に関する課題を明らかにし、本研究を日米比較研究の観点から本年度で取りまとめることにしたい。
(3) 引き続き、研究成果を学会等に発表するとともに、これまでの研究成果を書籍にまとめて出版したい。

５． 代表的な研究成果

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計 7 件）
(代表的な論文)

(1) 久原正治単著「投資銀行の再生」（経済学研究第７７巻、第６号、53－89 ページ、九州大学経済学会、2010 年３月） 査読無

(2) 久原正治単著「サブプライム問題と金融コングロマリット経営組織の有効性」（経済学研究第７５巻、第２，３合併号、53－89 ページ、九州大学経済学会、2008 年 12 月）査読無

(3) Naoyuku Yoshino,Koichi Suzuki, Kazutomo Abe, Masaharu Kuhara 共著 “Financial Congromeration in East Asian Regional Development” Daiwa Institute of Research , July, 2007 47－112 ページ 査読無

〔学会発表〕（計 ７件）
(代表的—全国レベル—な発表)

(1) 久原正治「投資銀行経営の将来」証券経営研究会、日本証券経済研究所、2010 年 3 月 1 日
(2) 久原正治「投資銀行経営の再生」証券経済学会全国大会、松山大学、2009 年 10 月 25 日
(3) 久原正治（統一論題報告）「サブプライム危機と事業の目的と使命」日本経営学会第 83 回大会、九州産業大学、2009 年 9 月 4 日
(4) 久原正治「サブプライム問題から考える金融機関の経営組織－金融コングロマリットの組織デザインのどこに問題があったのかー」日本経営学会第８２回大会、一橋大学、2008 年 9 月 4 日

〔図書〕（計 件）該当なし

〔産業財産権〕該当なし
○出願状況（計 件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

○取得状況（計 件）該当なし

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕